

カイエビス、チカメキントキなど

水族館へ行こう!

京都大学白浜水族館



△ カイエビスなど赤い魚は鮮やかだが水深10メートル以上になると見えにくくなる  
(水槽番号407)

水族館に来るときまざままな色、模様のある魚を見ることが出来る。砂に隠れるヒラメやマゴチは保護色、クエ、メジナ(グレ)

赤い魚はなぜ赤い?

などは地味な色をしていゝる。さらに赤、青、黄色などの派手な魚もいる。食卓に並ぶなじみの魚

は、カラフルなものがたくさんいる。チョウチョウオやスズメダイ、ベラの仲間などはとても鮮やかで種類ごとに異なる色と模様をしている。そして実際に海の中に潜ってみても、その色鮮やかな姿を見ることができ

では水深10メートルを超えたら赤い光がほとんどなくなり、赤い魚は黒か灰色に見えて目立ちにくい。外敵に見つかりにくいことは身を守るのに役立つ。魚屋さんや水族館で見ると赤くて派手に見えても、本来生息している海の中では見つかりにく

海にすむエビスダイやチカメキントキ、カイエビスなどは鮮やかな赤色をしている。水槽で展示飼育していると目立ってきいのだが、本来生息する水深では赤い光が届かないので、黒っぽい魚に見えるはずである。  
(京都大学技術職員)

比較的地味なものが多くいので、派手な色をした魚にはつい目を奪われてしまう。そして海の中はともカラフルなんだなど想像が膨らむ。それは半分は当たっているが半分は外れのような

確かに、さんご礁や岩礁の浅い海にすむ魚に

これに対して少し深い

しかし、水深10メートルを超えたと話は少し違ってくる。水は青色の光より赤い光を吸収しやすい性質がある。赤色の光は水中を7メートル進む間に99%が吸収され、わずか1%しか届かない。青い光は1%に減衰するまでに210メートル掛かる。このため海中

いわけだ。河口近くのごく浅い海に生息するヒラスズキやギンガメアジの幼魚などは、ほとんどの魚が黒っぽい色をしている。これらの魚は浅くて、隠れる場所の少ない河口近くの砂地にすんでいるので、派手な色をしていては外敵に見つかりやすく危険だからだろう。

10 加藤 哲哉